

2018年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Farzaneh Nazari (イラン、テヘラン)

暴力が増加し、国の権力者のメッセージを意図された目的のために届けたというだけで、罪なき人々が殺されている世界では、平和について語ることは簡単ではありません。私たち人間は、過去に達成したことが危険にさらされる段階まで来ており、ものごとの価値は日に日に失われています。このような状況において、私たちは、憎しみや戦争の犠牲となった人々に責任を負っています。青少年「平和と交流」支援事業 (HIROSHIMA and PEACE) プログラムは、小さな一步一步が重要であることを教えてくれました。私たちは他者に対する配慮を欠いてはいけません。また、それぞれがどんなに違っていても私たちには「平和」という同じ価値観があるのです。青少年「平和と交流」支援事業 (HIROSHIMA and PEACE) プログラムに参加したことは、私にとってターニングポイントとなる素晴らしい経験でした。

平和的に交流することを学ぶ

広島市立大学は、私の人生において違いをもたらした場所の一つです。大げさではなく、私はこの大学で成長しました。様々な人々と、どのように交流し、どのように協力するか、また、人々をバックグラウンドによって判断しないことを学びました。専門的なテーマについて自分の意見を伝えることは難しく、反対の立場に立つことも簡単ではありませんでした。しかし今では、いろいろな国から来た、様々な知識や考え、文化を持ち、しかしながら目的はただ一つである人たちと友だちです。

様々な側面からヒロシマの悲劇について事実を学ぶ

このプログラムの間、私たちが受けた講義では、講師たちはヒロシマの悲劇について、歴史的、科学的、政治的に説明してくれました。その後、平和を構築するために私たちが何をすべきかということについて話してくれました。結論へと導くプロセスは非常に有益で、ためになり、実行可能なものでした。講師たちも様々な国から来ていましたが、この悲劇的な出来事について誰もが偏見なく語ってくれました。

語る方法の違い

被爆者側からの話を聞いたことは、得がたい経験でした。被爆者の話を聞く中で、私が気づいた重要な点の一つは、彼らが物語る方法です。彼らは悲惨な体験の細部でさえ、省きはしませんでした。そのため、より印象が強いものとなりました。イランの戦争生存者の話と、被爆者が自分たちに起きた出来事がもたらしたことを伝えるために選んだ方法との間には多くの違いがあることを知りました。

グループでのプロジェクトを実行する

平和首長会議のスタッフによる「青少年『平和と交流』支援事業 (HIROSHIMA and PEACE)」

独自プログラムの第2回目のセッションの後、私たち参加者はグループでのプロジェクトを行うことにしました。近い将来、平和構築を目的としたオンラインでの合同ワークショップを行い、NGOや大学、そして私たちが所属する小さな社会のネットワークを作りたいと思います。また、自分たちの国にこの企画を紹介するために、ビデオを作成するのも良い考えだと思っています。

刺激を与えてくれた旅

今回の旅は、非常に刺激を与えてくれました。というのも、イランに帰国し、テヘラン平和博物館のメンバーと会合をし、経験を分かちあったのですが、その際、私の大学や私が参加する小さな社会において、核科学について、またひとつの国が核エネルギーや核兵器を持つことの様々な側面について、その知識を高めるのに何をすべきかというアイデアがたくさん浮かんできたのです。まず、環境に与える影響が少ないエネルギーを作り出す代替手段について科学的な小論文を書こうと思います。次には、主に核科学に取り組んでいる私の大学でワークショップを開くことを考えています。また、核兵器のもたらす結果について来館者に紹介するために、テヘラン平和博物館に新たな部門を始動させたいとも考えています。

最後に、私にこのような機会を与えてくれた平和首長会議及び思いやりのあるスタッフ、広島市立大学には、言葉では言い尽くせないほどの感謝を伝えたいと思います。世界から核兵器を廃絶するために、私たちが何かできればと思っています。